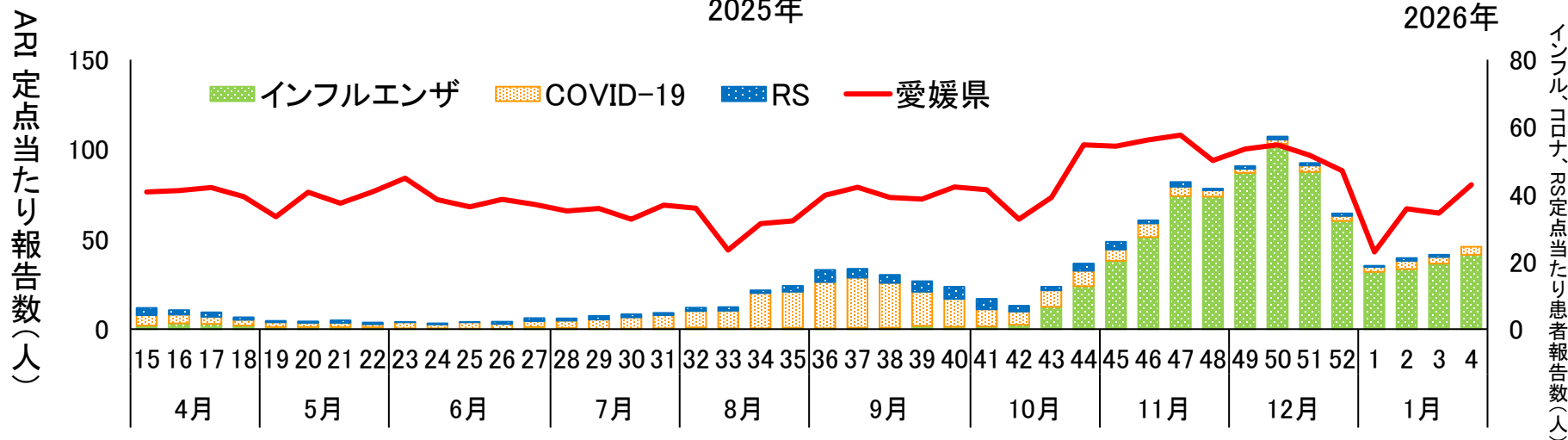
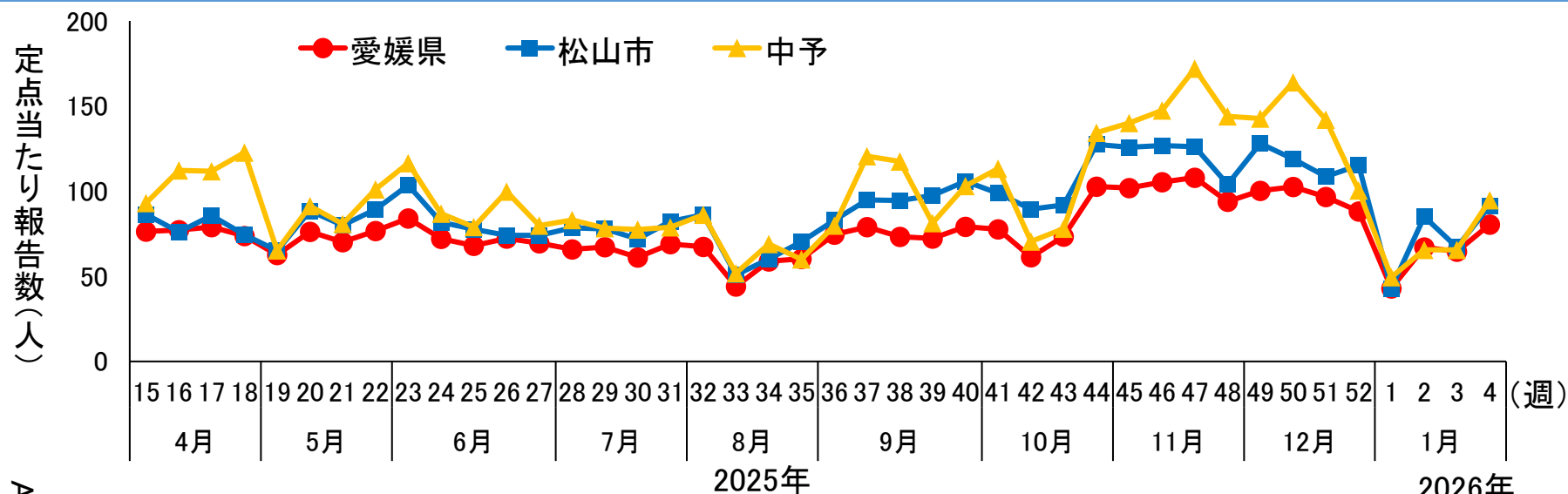


松山圏域の感染症の発生状況について

〈今回報告する疾病〉

- 急性呼吸器感染症(ARI)
- インフルエンザ
- 新型コロナウイルス感染症
- 感染性胃腸炎
- 百日咳
- 梅毒
- 主な全数把握感染症

急性呼吸器感染症(ARI)の発生状況

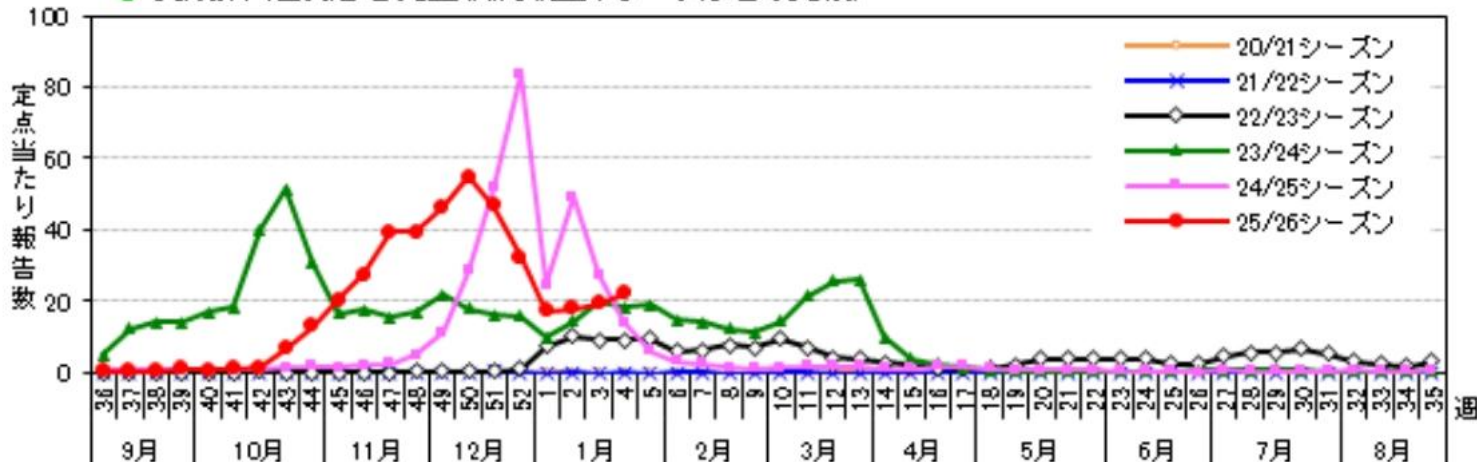


- ・ 愛媛県、松山市、中予では10月下旬から定点当たり患者報告数が増加した
- ・ 2026年1月に入り、再度増加傾向に転じている
- ・ 呼吸器感染症（インフル、新型コロナ、RS）患者の推移とリンクしている

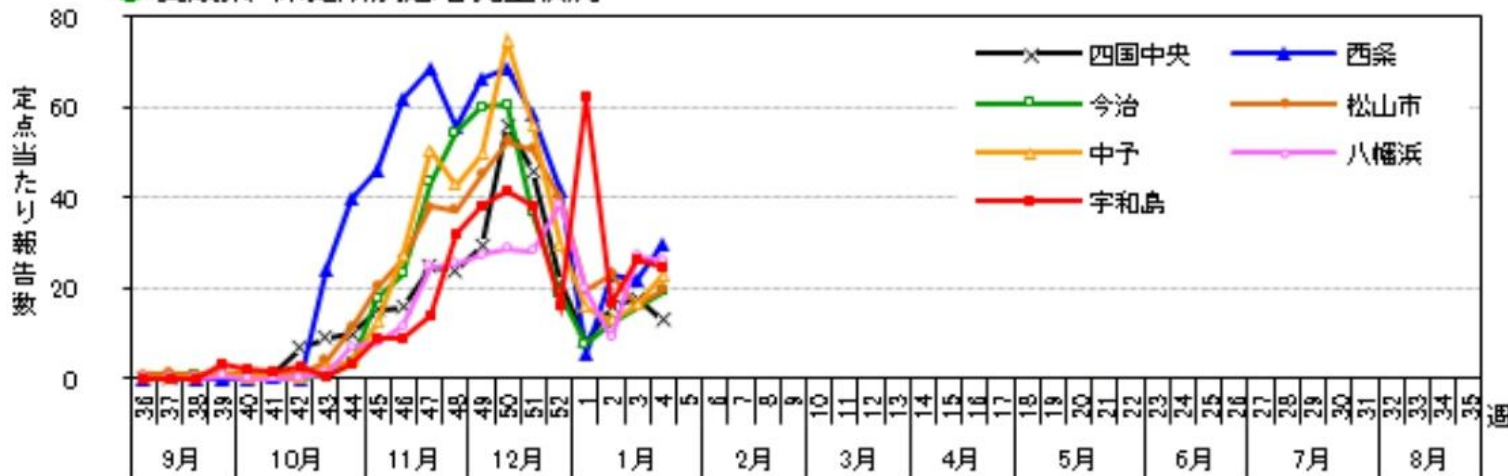
インフルエンザの発生状況

引用：愛媛県感染症情報センターHP

● 愛媛県 週別患者発生状況(過去5シーズンとの比較)

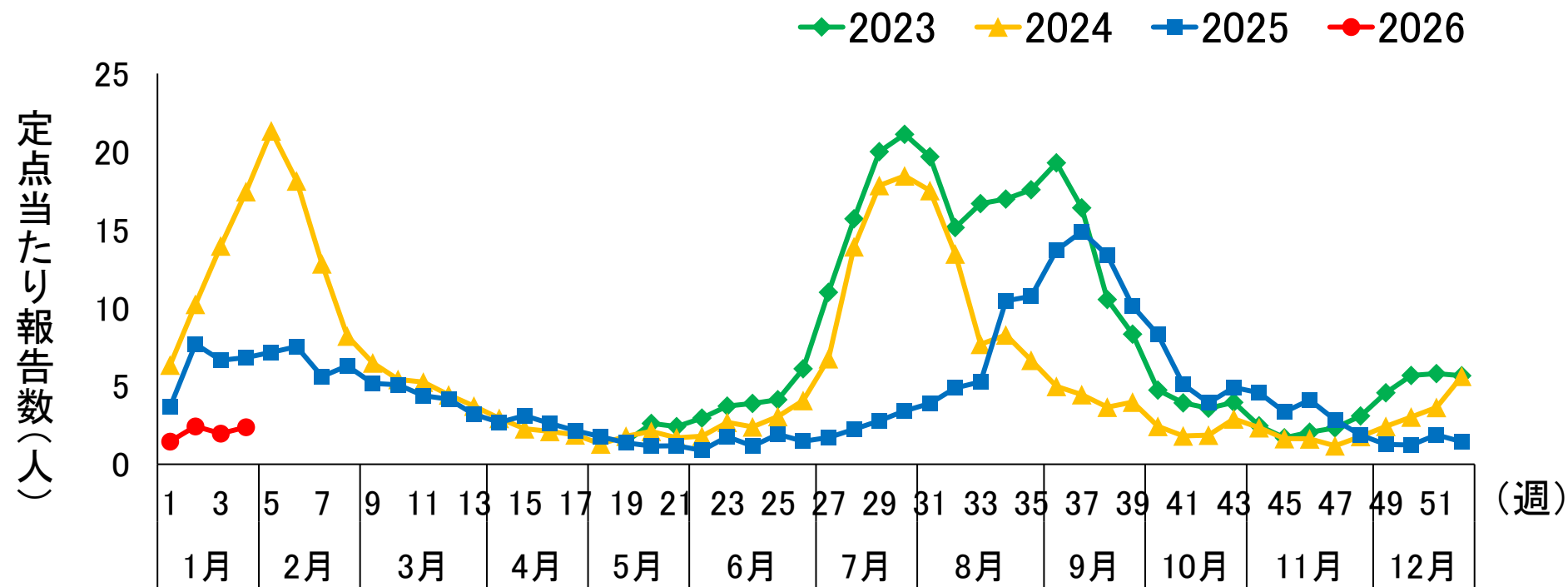


● 愛媛県 保健所別患者発生状況



- ・ 2025年10月下旬から患者報告数が急増し、第50週（12月中旬）にピークを迎えた
- ・ 第47週（11月下旬）に警報レベルを超え、現在も警報レベルが続いている
- ・ 迅速検査の結果では、2025年はほとんどA型であったが、1月以降B型が増加

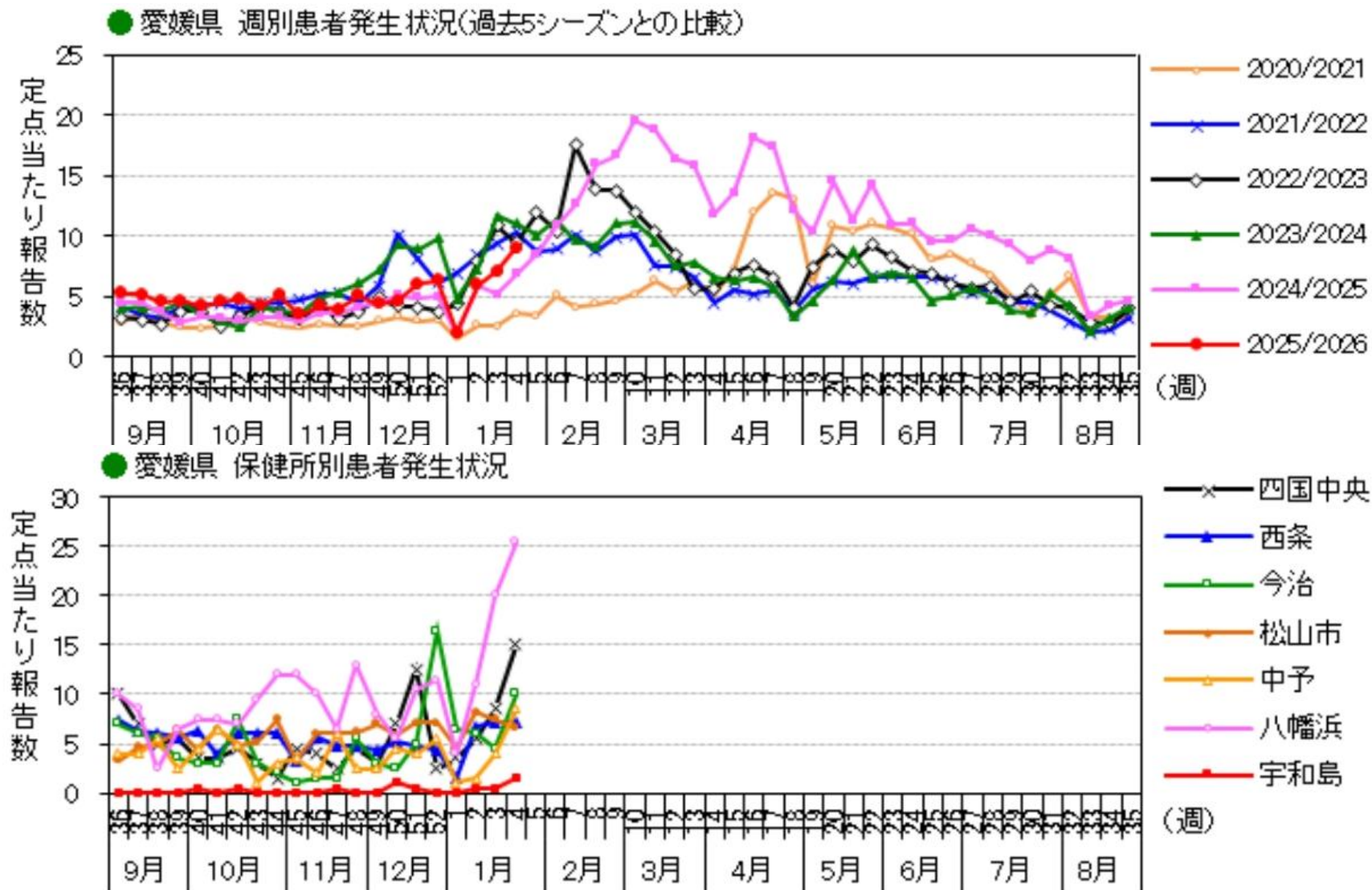
新型コロナウイルス感染症の発生状況



- 2024年の定点当たり患者報告数は夏季と冬季の二峰性
- 2025年は、顕著な二峰性を示さず、夏季（8～10月）に増加
- 年齢別にみると、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層で見られている
- 高齢者施設で発生するクラスターの主な起因病原体

感染性胃腸炎の発生状況

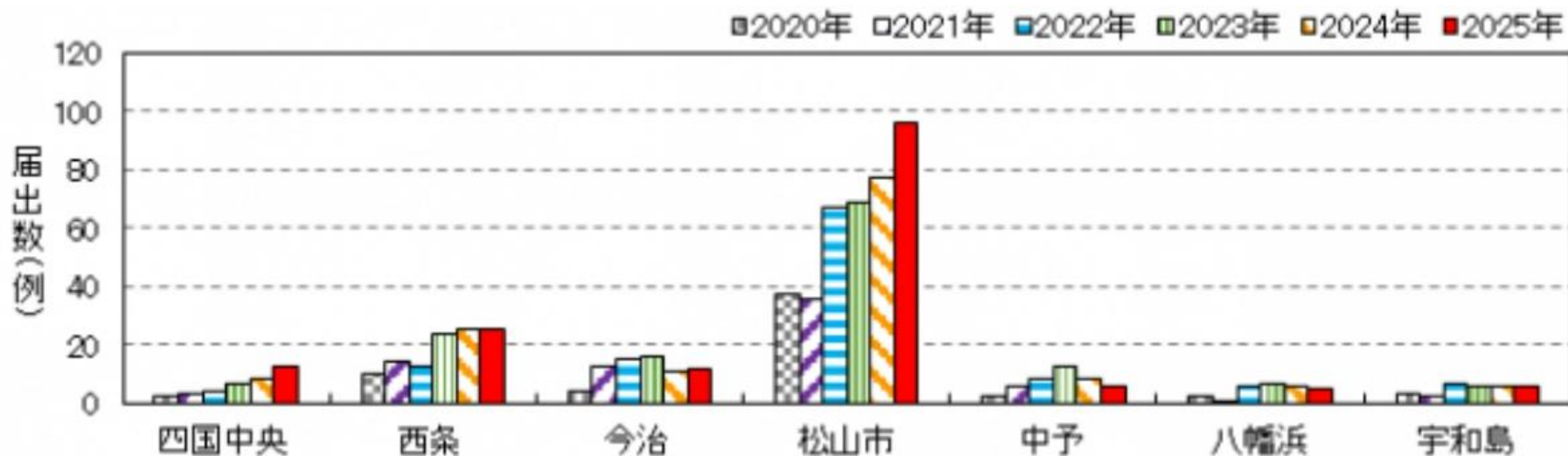
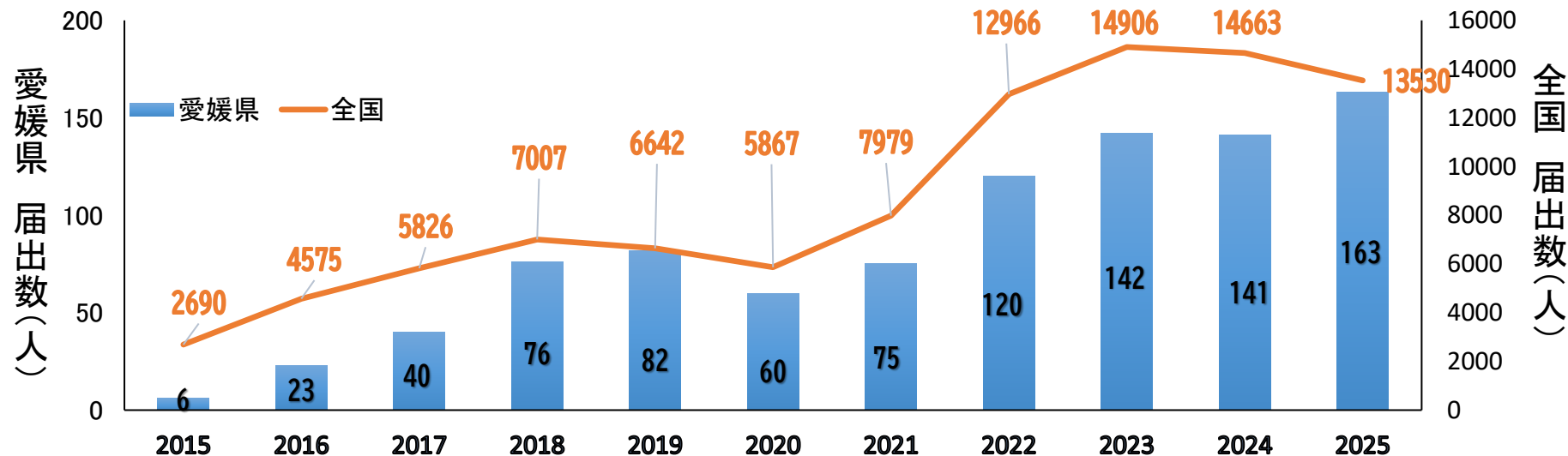
引用：愛媛県感染症情報センターHP



・ 例年、冬季に報告数が増加する傾向にあり、今後の動向に注意が必要

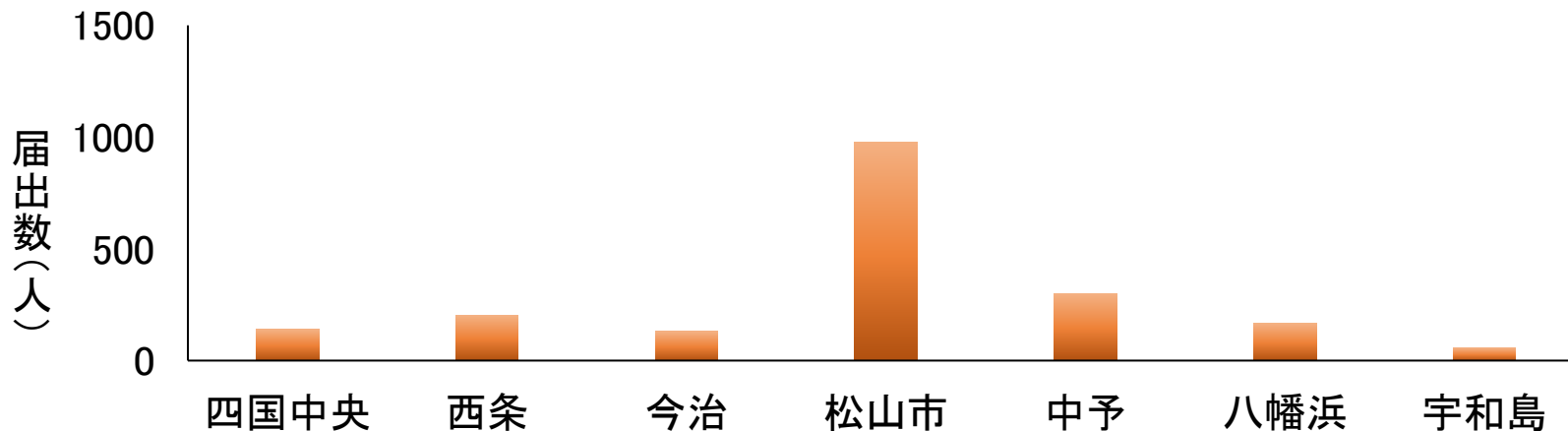
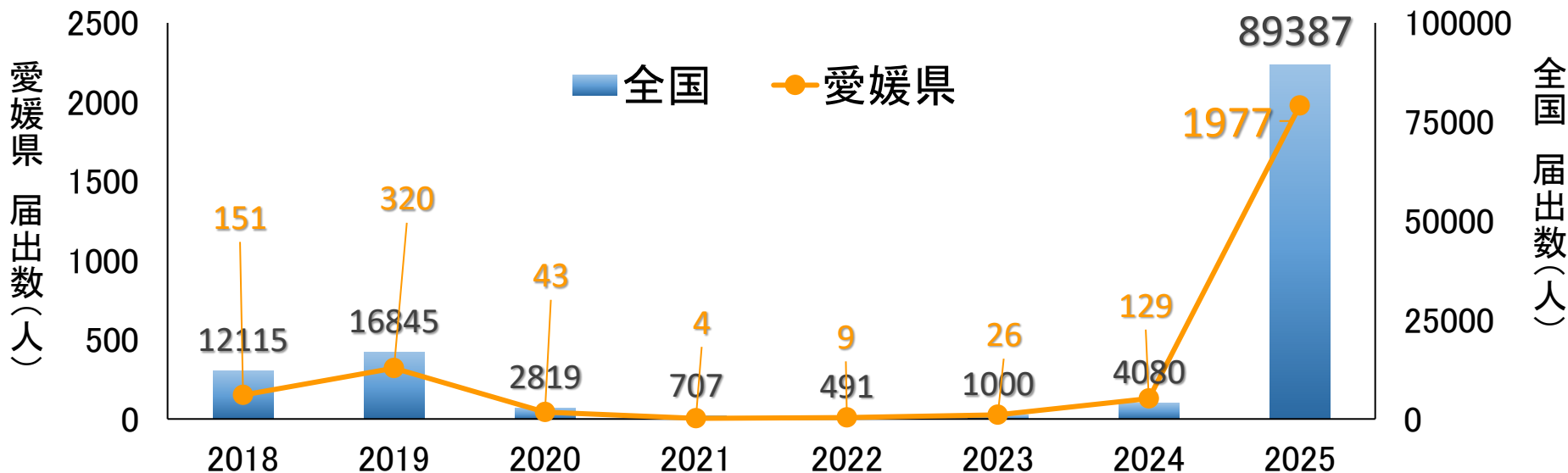
梅毒の発生状況

引用：愛媛県感染症情報センターHP



- ・ 愛媛県では2025年は163人と過去最高の届出数（全国では横ばい）
- ・ 年々報告数が増加しているのは、四国中央保健所と松山市保健所

百日咳の発生状況



- ・ 2018年の調査開始以降、全国、愛媛県ともに過去最高
- ・ 松山市保健所の届出数が最も多く、次いで中予保健所管内が多かった

主な全数把握対象疾患

過去3年の報告数

感染症分類		2025(R7)速報値			2024(R6)			2023(R5)		
類型	名称	愛媛県	中予	松山市	愛媛県	中予	松山市	愛媛県	中予	松山市
二類	結核	98	—	30	138	9	38	112	6	31
三類	細菌性赤痢	1	—	1	—	—	—	1	—	—
	腸管出血性大腸菌感染症	23	—	12	44	6	13	16	1	8
四類	E型肝炎	3	1	2	1	—	1	1	—	1
	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)	8	—	1	6	1	4	3	—	1
	デング熱	1	—	—	2	—	2	1	—	—
	日本紅斑熱	17	—	7	19	—	12	20	—	7
	日本脳炎	1	—	1	—	—	—	—	—	—
	レジオネラ症	20	1	8	17	1	8	20	1	3
	レプトスピラ症	1	—	1	—	—	—	1	—	1
	アメーバ赤痢	2	—	1	4	—	2	3	—	1
	ウイルス性肝炎(A・E型肝炎除く)	4	—	4	3	1	2	4	—	—
五類	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	5	—	1	16	—	10	28	1	10
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	—	—	—	—	—	—	—
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	24	1	10	27	3	16	11	1	7
	後天性免疫不全症候群	1	—	1	7	3	2	3	1	—
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	—	1	6	—	2	4	—	2
	侵襲性肺炎球菌感染症	17	—	8	17	1	8	8	2	2
	水痘(入院例)	8	—	3	1	—	—	5	—	2
	梅毒	163	6	96	141	8	76	142	13	68
	播種性クリプトコックス症	1	—	—	4	1	3	4	2	—
	破傷風	2	1	1	—	—	—	2	—	1
百日咳	1975	300	977	129	—	14	26	—	5	